

全国和牛能力共進会「高校及び農業大学校の部」で
日本一を目指す

小林秀峰高校農業クラブ



5年前の「第11回全国和牛能力共進会」で2区優等賞5席(全国5位)を獲得した同クラブは、現在3年生4人と1年生2人で活動中。先輩たちに続くべく、10月に鹿児島県で開催される「第12回全国和牛能力共進会」の特別区「高校及び農業大学校の部」で日本一を目指す。
今回、宮崎県代表決定検査に出品する「ふくえ」と「まひろ」の引き手を務める古川颯太さんと松元未美さんに話を聞いた。

全共を目指しクラブ再始動 部員6人で奮闘中

平成29年に宮城県で開催された「第11回全国和牛能力共進会」に高校として30年ぶりの出場を果たし、2区で優等賞5席に輝いた小林秀峰高校農業クラブ。

現在は、10月に鹿児島県で開催される「第12回全国和牛能力共進会」の「高校及び農業大学校の部」への出場を目指して活動中だ。

昨年10月の「全国和牛能力共進会宮崎県出品対策共進会(プレ全共)」への参加を先生に勧められ、「5年に一度の全共はめったにない機会。挑戦してみたい」と、実家が繁殖農家の古川颯太さんと松元未美さんがクラブに加入。現在は、3年生4人と1年生2人の計6人で活動している。

部員は、毎日高原農場に足を運び、代表検査に出品する子牛「ふくえ」と「まひろ」をお世話。「ふくえ」の引き手を務める古川さんと、「まひろ」の引き手を

務める松元さんを中心に、理想的な体型にするために走らせる引き運動や、美しく毛並みを整えるシャンプー・ブラッシング、美しい立ち姿を見せるための調教に日々取り組んでいる。

「牛を見る目がついてきた」 感じる確かな成長

先日6月3日には、小林地域家畜市場で西諸代表牛決定検査(最終決選)が行われ、農業クラブも「ふくえ」と「まひろ」を出品。2頭とも8月の県代表決定検査へと進んだ。

実際に会場で牛を引き、「自分たちだけでなく他の農家さんもがんばって



「ふくえ」の引き手を務める古川さん(左)と、「まひろ」の引き手を務める松元さん(右)

気負わず自分たちらしく 県代表決定検査に挑む

「高校及び農業大学校の部」では、出品牛の審査に加えて各学校の取組状況の発表が行われ、その結果が審査に大きく反映される。

古川さんと松元さんは引き手を務める古川さんと松元さんのサポートを務める一方で、取組発表も担当。それぞれ役割分担しながら、団結して日本一を目指す。

県内では、都城農業高校も「高校及び農業大学校の部」での出品を狙っており、全共へは1頭のみが県代表として出品できる。

家族や関係機関の技術指導員などから日々アドバイスやサポートを受け、周囲から応援されていると感じるという2人。

古川さんは「まずは都城農業高校の牛に勝ちたい。そして、ふくえとまひろのどちらが選ばれても、お互いにサポートし合いたいと思います」。松元さんは「まひろと一緒に全共に出たい。でもまずは、都城農業高校よりいい牛を作れるようにがんばっていきたい」とそれぞれ意気込む。

る。家族やたくさんの方の応援のおかげで、自分たちが成長を実感している。現在の課題は、牛の栄養だと言った2人。子牛には十分な栄養が必要だが、太りすぎは禁物。「まひろ」と「ふくえ」は栄養が付きすぎていたため、今は県代表決定検査に向けて体型を整えることに特に力を入れている。また、万全の状態の歩き方や咳の仕方など、体調の変化を見逃さないよう気を配る。

自分たちの成長を実感している。現在の課題は、牛の栄養だと言った2人。子牛には十分な栄養が必要だが、太りすぎは禁物。「まひろ」と「ふくえ」は栄養が付きすぎていたため、今は県代表決定検査に向けて体型を整えることに特に力を入れている。また、万全の状態の歩き方や咳の仕方など、体調の変化を見逃さないよう気を配る。

仲間たちと団結して日本一を目指す。クラブ活動の中で、古川さんと松元さんが特に頼りにしているのが、同じく3年生の永井夢菜さんと吉田隼さんだ。2人は友人である松元さんの誘いを受け、クラブに加入。

永井さんと吉田さんについて、「畜産のことが分からない状態で加入してくれたのに、いつも自分たちをしっかりとサポートしてく



上段：6月3日の西諸代表牛決定検査の様子 中段：「引き運動」では、声を掛けながら一緒に走り、子牛に適度な運動をさせることで、病気への抵抗を高め、体型を整える 下段①：美しい毛並みにするために、シャンプーやブラッシングは欠かせない 下段②：美しい立ち姿を見せるための「調教」。牛の欠点を直そうと自分たちががんばると、牛がそれに応えようと思ってがんばってくれる。それがすごく嬉しい」と2人は話す